

昭和62年6月30日～7月23日
大学図書館2階展示ホール

茶室おこし絵

茶室おこし絵とは、紙を裏打ちして切抜き、立てて組み合せるようにした模型である。茶庭の設計などに利用されたものらしい。

今回は、戦国時代後期から江戸初期に活躍した一流の茶人である古田織部・細川三斎・金森宗和・小堀遠州の各々好みの茶席を中心として展示する。

- 1 裏千家又隠(うらせんけゆういん) (茶室おこし絵図集 2)
京都市 千利休好み 四疊半
千宗旦が隠居屋敷を仙叟宗家〔元和八年(1622)～元禄十年(1697)〕に譲って再び隠居する際に造立した四疊半であるといわれる。草葺入母屋造り。軒がきわめて低い鄙びた外観をかたちづくっている。この四疊半は利休流四疊半の典型として江戸時代に広く流布された。
- 2 本圀寺茶室(ほんこくじちゃしつ) (茶室おこし絵図集 11)
京都市下京柿本町 古田織部好み
本圀寺は、日蓮宗大本山。大光山という。日静が開創。もとは本国寺といったが、第二十世日隆が水戸徳川家の光圀の帰依を受けたのに因んで本圀寺と称する。本圀寺と古田織部〔天文十三年(1544)～元和元年(1615)〕との関係は、近衛信尹をつうじてといわれる。「拾遺都名所図会」の「茶亭方丈の奥にあり、古田織部の好也」との記載。そして「古田織部好本圀寺方丈二有之冊建地割」と題する楽翁の起絵図等により、その存在が裏付けられている。
- 3 麓苑寺夕佳亭(ろくおんじせっかてい) (茶室おこし絵図集 7)
京都市北山 金森宗和好み 三疊
明治初年に焼け、同七年(1874)に再建された。焼失前の状態を伝えた起絵図により、ほぼ旧来の建物を再現したものであることがわかる。しかし現在の床柱は、南天の曲木であるが、起絵図では「鉄刀木(たがやさん)」となっている。金森宗和〔天正十二年(1584)～明暦二年(1656)〕好みと伝えられるが、明らかではない。江戸初期に流行した山荘茶屋の一典型を示す。
- 4 天龍寺真乗院(てんりゅうじしんじょういん) (茶室おこし絵図集 10)
京都市嵯峨 細川三斎好み 四疊大目
天龍寺塔頭真乗院は、はじめ宝光院といい。笑山周念を開基として、細川頼之が建立した。しかし応仁の乱で灰燼に帰した後、細川澄元が永正年中(1504～1521)に再興して真乗院と改めた。その後、寛永年中(1624～1644)に、住持玄英と細川忠興(三斎)〔永禄六年(1563)～正保二年(1645)〕が懇意だった関係から真乗院の本堂・庫裏以下すべての建物が、細川三斎により再建されたといわれる。元治元年(1864)の戦火で再び焼失し、明治維新後、塔頭松岩寺に併合された。

- 5 南禅寺金地院(なんぜんじこんちいん) (茶室おこし絵図集 3)
京都市 小堀遠州好み 三疊大目
茶室は、通称「八窓席(はっそうのせき)」という。金地院崇伝の依頼を受けて、小堀遠州〔天正七年(1579)～正保四年(1647)〕が設計したものである。これは、前から金地院にあった三疊半大目の茶室を改造したもので、「本光国師日記」の記事により寛永五年(1628)頃までには完成していたと推定されている。庭から縁側にあがり、さらに18cm程高い茶席ににじり入るといふ遠州得意の手法がとられている。
- 6 大徳寺孤蓬庵小座敷及茶室(だいとくじこほうあんござしきおよびちゃしつ) (茶室おこし絵図集 3)
京都市紫野 小堀遠州好み
小堀遠州が慶長十七年(1612)龍光院の中に建てたが、寛永二十年(1643)現在の地に移し、江月宗玩を開祖として自ら菩提寺した。遠州は孤蓬庵と号した。安政五年(1858)火災で焼失した後、松平不昧らの援助により再建。茶室 忘筌及び山雲床が有名である。
- 7 大徳寺龍光院(だいとくじりゅうこういん) (茶室おこし絵図集 3)
京都市紫野 小堀遠州好み 四疊半大目
慶長十一年(1606)江月宗玩に親しかつた黒田長政が、亡父如水の菩提所として建立。境内に、小堀遠州の孤蓬庵、佐久間将監の寸松庵などが建立されたりした。江月宗玩が堺の津田宗及の息であった関係から、宗及の遺品などが伝えられている。茶室密庵(みったん)席は国宝。
- 8 高台寺遠州好茶室(こうだいじえんしゅうごのみちゃしつ) (茶室おこし絵図集 4)
京都市東山 小堀遠州好み 四疊大目
高台寺は、臨濟宗建仁派の寺。慶長十年(1605)豊臣秀吉の菩提を弔らうため北政所高台院が、康徳寺を移し合せて建立した。建仁寺住持三江紹益が開山。高台寺にあったといわれる遠州好茶室は、現在奈良博物館苑内にある伝古田織部好み「八窓庵」に板疊を加えた形式という。方丈に接続して作られたため、貴人口がつき、にじり口の位置と形式に相違が生じた。

* 茶室おこし絵図集 (791.6-1)
東京 墨水書房 昭和38～42年刊 12集(50図) 各集に参考写真・別冊解説あり 各項目の説明は、この「解説」及び「図説茶道大系 第4巻」(791-Z8-4)、「原色茶道大辞典」(791-G34)によった。

おわび

前号「展示古書籍紹介 51」におきまして、下記の記述に誤りがありました。謹んで訂正いたします。

○節用集 覆刻易林本	訂 古活字版	→	正 版本
○論語	古活字版	→	版本